

2026 年度 日本都市学会第 2 回理事会議報告

2026 年度第 2 回理事会は、2025 年 9 月 19 日（土）13 時 30 分から対面（於：名古屋都市センター）とオンラインで開催されました。出席者は、山崎健会長、磯部友彦、井澤知旦、児玉浩嗣（以上対面出席）、松村茂、増田聡、土居洋平、平井太郎、小山弘美、久隆浩、根田克彦、豊田哲也、北川博史、山下宗利、野村理恵、川瀬正樹、車相龍、阿部亮吾（以上オンライン出席）の各理事です。議事の概要は次の通りです。

■議題 1 2025 年度決算報告ならびに 2006 年度事業計画・予算について

2025 年度決算の最終報告が行われました。また、2026 年度の事業計画・予算が承認されました。なお、ひっ迫している学会の財政について議論がありました。

■議題 2 学会賞担当事務局からの報告

学会賞について次の通り決定しました。

選考委員会の審査の結果、次の著作に日本都市学会賞（奥井記念賞）を授与することが決まりました。

◎申 恵媛著『エスニック空間の社会学』（新曜社、2024 年 1 月 31 日発行）

◎池田千恵子著『歴史的建造物の再生とツーリズムジェントフィケーション』（古今書院、2025 年 3 月 15 日発行）

ついで日本都市学会論文賞を選考委員会の結論通り、次の論文著者に授与することが決まりました。

◎畑山要介・小野 悠「豊橋市中心市街地におけるマンション居住者のライフスタイル—地方都市における都心回帰の実態をめぐる分析—」（『日本都市学会年報』第 57 号）

■議題 3 年報担当事務局からの報告

『日本都市学会年報』の電子化に関する以下の 3 点について年報担当事務局より報告があり、議論された結果承認されました。

1) 過去の査読付き論文の電子化について

2026 年 7 月 14 日から学会ホームページ上で意見募集を行ってきた結果、特に反対意見等ないため、現行の規程で電子公開が可能な年報第 48 号～57 号の査読付き論文についてはすぐに電子公開を進めることが決まりました。また、年報 58 号と 59 号の査読付き論文の電子公開にむけ、今年度予算から 10 万円が充てられることになりました。査読付き論文以外の過去の原稿の電子公開については、継続的に議論されることになります。

2) 今後の年報の電子化と紙媒体の在り方、公開タイミングについて

2026 年 7 月 14 日から学会ホームページ上で意見募集を行ってきた結果、特に反対意見等ないため、年報 60 号以降、紙媒体での発行を廃止し、電子ジャーナルのみでの発行体制

へと移行することが決まりました。また、最新号の公開は即座に行われる旨も決定されました。なお、査読付き論文以外の原稿の電子化については、今後投稿要領を変更するため、次回理事会にて新しい要領を提案する旨、報告がありました。

3) その他

- ・無査読論文の電子公開においては、無査読であるため研究倫理上の問題が発生する可能性を学会としてどう処理するのかは、今後も継続的に議論する予定です。
- ・論文審査料の有料化については、今後も継続的に議論する予定です。

■議題 4 論文審査担当事務局からの報告

論文審査担当事務局（九州都市学会）より、2026年度の審査日程について、例年と変わらない旨の報告がありました。

■議題 5 第 73 回大会について

大会担当事務局（中四国都市学会）より、第 73 回大会（2026 年度、徳島大学）のプログラムが報告され、合わせて一般発表の司会者の提案がなされました。

■議題 6 第 74 回大会について

近畿都市学会より、第 74 回大会（2027 年度、茨木市文化・子育て複合施設「おにクル」、立命館大学大阪いばらきキャンパス、追手門学院大学茨木総持寺キャンパス）の日程候補（2027 年 10 月 29 日～31 日）について報告がありました。また、大会のテーマが「共創のまちづくりの進化と深化」として提案されました。

■議題 7 会長選挙について

第 1 回投票の結果、過半数の得票者がいなかったため、第 2 回の投票が行われました。選挙の結果、次期会長には井澤知旦先生（中部）にお願いすることで了承されました。